

| | | | |
|------|---------------------------------|------------|----|
| 活動分野 | 森に親しむ野外講座 | | |
| タイトル | 「いすみ環境と文化のさと」から万木城公園 | | |
| 実施日時 | 平成29年4月18日（火）8時30分～17時 | | |
| 実施場所 | いすみ市 「いすみ環境と文化のさと」 万木城公園及び周辺の里山 | | |
| 受講者 | 25名 | FIC会員他スタッフ | 4名 |

活動の内容 在来植生と外来植生の比較等

「いすみ環境と文化のさと」は、平成4年環境庁（当時）が、全国に設置することを決めて、最初に選定された代表4ヶ所の一つです。豊かな自然環境に育っている多くの在来種、絶滅危惧種を中心に、その健気に生きる姿に直接触れていただきました。文化面では、土岐氏が構築した難攻不落の要害の跡を歩き、周辺住民により、修復・保存されている土岐氏ゆかりの寝釈迦像を参拝しました。

在来種と外来種

カントウタンポポ・トウカイトンポポとセイヨウタンポポ、ミミナグサとオランダミミナグサ、オドリコソウとヒメオドリコソウ等、散策コースを歩きながら、実物を比較し、その形態の違い、受粉・種子散布の方法の違いなどについて、意見交換をしました。タンポポやミミナグサ等、交雑種も見受けられ、見分けのポイント等、自然の営みの不思議を体感できました。

アオキ・サルトリイバラ・アケビの花が満開でしたが、その雌雄の班別、マムシグサの雄株・雌株の見分け方、性転換の話など、季節ならではの話題も豊富に織り交ぜての散策となりました。

水田では、田植えの準備で、昨夜の雨の影響もあり、満々と水がたたえられ、カエルがにぎやかに合唱していました。ニホンアマガエルとシュレーゲルアオガエルの鳴き声を録音していたものを、バス車中で放送し、今鳴いたのは、どちらだとあてっこをしながら帰路につきました。

心配した、降雨・強風・高温に見舞われることなく、のどかな里山の自然を満喫できた一日でした。

イスマスズカケの説明



寝釈迦像



オドリコソウ



以上